

### 1 被害者にも加害者にもなり得る危険性

老若男女を問わず、スマートフォンなどを活用して誰でも自由に、しかも簡単に自己表現や自己発信できる、便利なツールとしてSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）は現代社会には必要不可欠なモノです。それについては誰も異論はないと思いますが、一方で「表現の自由」や匿名性をいいことに、他者への誹謗中傷が後を絶たないという現状も現代社会が抱える大きな問題の一つです。

ある日突然、全く面識のない人物から不当な罵詈雑言や身に覚えのない批判を書き込まれる怖さ、ひどい言葉が刃となって自分に襲い掛かってくるという状況が生まれています。しかも、一度投稿された非難や中傷は瞬く間に世界を駆け巡り、その書き込みが削除されても、また誰かがそれを拡散させてしまうという終わりのない負の連鎖。子どもからお年寄りまで、誰もが被害者になり得るし、また、加害者にもなり得るわけです。



### 2 いのちの問題

広報2月号に掲載した「言葉は凶器になる」と同様、自殺にまで発展する痛ましいケースも少なくありません。人間は弱いものです。他者からのいわれのない攻撃に耐えられるほど強くはありません。偏った正義感や思い込み、批判の対象を人違いしてしまうなど、問題点はたくさんあります。こんなことで悩まなくてもいい社会にするためにはどうすればいいのでしょうか。使う人のモラルはもちろんです。匿名で発信することの無責任さという問題点を、みんなで考えていきたいと思います。

### おうちで食べたい給食レシピ！ 「おさつレバー」



#### 【材料（4人分量）】

- さつまいも……………140g
- 鶏レバー……………80g
- A 水……………600ml
- こいくちしょうゆ……………10g
- 酒……………20g
- おろししょうが……………4g
- 片栗粉……………適量
- 揚げ油……………適量
- B 砂糖……………4g
- こいくちしょうゆ……………8g
- みりん……………12g
- おろししょうが……………4g
- いりごま……………8g

#### 【作り方】

- ① さつまいもは1cm幅のイチヨウ切りにし、水にさらす。
- ② 鍋にAを入れて火にかけ沸騰したら、鶏レバーを入れてゆでる。火が通ったらすくい上げて水気を切っておく。
- ③ さつまいもは水気を切って、170度の油で中に火が通るまで素揚げし、鶏レバーは片栗粉をまぶして180度の油で表面がカラっとするまで揚げる。
- ④ フライパンにBの調味料を入れて煮立たせたら、揚げたさつまいもとレバーを入れてからめ、さらにいりごまを入れて軽く混ぜたらできあがり。

#### ひとくちメモ

さつまいもがおいしい時期になりました。さつまいものビタミンCはレバーの鉄分の吸収を助け、効率よく摂取できるようにしてくれます。

### 文芸広場

#### 肥後狂句

- おそろしかア 真近にコロナ感染者 池田 茜
- おそろしかア 戦火まみれのウクライナ 高木せいや
- おそろしかア 一人暮らしは考える 瀬上 歌子
- おそろしかア 良かれの嘘が命取り 二瀬 桔梗
- 期待して 出した狂句は的はずれ 井上りんどう
- 期待して 孫も曾孫も継がらんげな 福永すみれ
- 世話やきが 居たらまちと子も多か 池上 沢庵
- やっぱり みそ汁のある朝ご飯 石原かわせみ
- やっぱり 唾のみだうだレントゲン 庄山 道草

#### かなしき原俳句会

- 芭蕉の葉風の刃に裂かれをり 貞子
- 滔々と雲を運ぶや秋の川 明
- 有効に使ひし一日法師蟬 康子
- 絶筆となりし文読む秋灯下 弘子
- 露西亞よりなびく硝煙終戦忌 誠一
- 菊水俳句会
- 天高し休み休みの野良仕事 永田 紘彦
- 蠅螂のにらみ悲しきバツタかな 本田美穂子
- 虫籠の中を見せあう子供かな 嶋田 俊一
- 台風の迫る夕空雲豊か 宮中 康雄

### 和水町公民館図書室だより

中央公民館図書室 ☎0968・86・2022  
三和公民館図書室 ☎0968・34・3047

開館午前9時～午後10時（年末年始除く） 1回につき1人5冊まで、2週間借りることができます。

季節を知っているのか虫の音が秋を知らせてくれますね。食欲の秋・スポーツの秋そして読書の秋です。秋の夜長に虫の音をBGMに読書を楽しみませんか！  
今回は50歳前後の女性の生き方の本と石原慎太郎さんの最期の本をご紹介します。弟・裕次郎や妻と息子たちへの愛と感謝。文学・政治への情熱と悔恨。石原慎太郎さんはどんな人だったのか赤裸々につづっています。



#### 「私」という男の生涯

著者：石原慎太郎  
生前に、「自分と妻」の死後の出版のために書かれた自伝です。  
「死の瞬間にも意識だけははっきりとしていたものだ。出来ればその床の中で、有無を言わされぬたった一度の体験として迎える自分の死なるものを、意識を強め、目を凝らして見つめてみたいものだ。それがかなったならば、多分、この俺はつい昨日生まれたばかりのような気がするのに、もう死ぬのかと思うに違いない。」（本文より）



#### 女性の覚悟

著者：坂東眞理子  
50歳前後の女性がどう生きるか？の大前提は、一人一人の女性が「覚悟」を持つことです。不安材料をあげればきりがありません。他人と比べず、他人に期待せず、自分の人生の責任者は自分だと覚悟しましょう。あとは、じたばたしても始まらない、一日一日を大事に丁寧に生きて行けば、なんとかなると楽観的に考えることができます。（あとがきより）